

第48回粘土科学討論会報告

第48回粘土科学討論会は、9月16日(木)～17日(金)に新潟大学五十嵐キャンパス、工学部及び総合教育研究棟(旧教養G棟)において、開催されました。共催学会は、資源・素材学会、資源地質学会、ゼオライト学会、地盤工学会、日本化学会、日本火山学会、日本原子力学会、日本岩石鉱物鉱床学会、日本鉱物学会、日本セラミックス協会、日本セラミックス協会原料部会、日本高分子学会、日本第四紀学会、日本地学教育学会、日本地球化学会、日本地質学会、日本土壌肥料学会、日本熱測定学会、日本ペドロロジー学会、農業土木学会(50音順)の20学会。新潟大学は、五十嵐地区へ移転して、30年余がすぎました。前回新潟大学で粘土学会を開催したのは、1979年の25年前でした。

今回、参加人数は新潟大学の学生・院生を入れると208(スタッフの学生・院生を除くと182名:内訳は会員109名、学生会員18名、非会員21名、非会員学生34名)くなく25年前の新潟での第23回討論会には参加者135名

懇親会参加者51名、エクスカッション参加23人との記録があります。討論会では口頭発表は56件、ポスター発表は57件でした。初日、16日午後には、特別講演は会長講演として新潟大学総合教育研究棟(旧教養G棟)(新潟市五十嵐二の町8050)においてとりおこなわれました。山岸皓彦会長は「化学についての粘土、粘土についての化学」という演題で、ご自身の長い研究歴にもとづいて、粘土を素材に興味深い実験ができたこと、化学と粘土科学の相互に刺激しあう、問題提起しあえるものということが具体的な体験から提起され、興味深い話になりました。

引き続き、粘土科学討論会シンポジウムが同じ会場で行われおこなわれました。このシンポジウムは、実行委員会で検討して一般公開としました。ポスターをみて参加してきた人もいました。テーマは「Claysphere Part 3:生活空間・身の回りの粘土-粘土圏環境における粘土の利用-」ということで、これは一昨年、昨年のシンポジウム(Claysphere Part 1, Part 2)に引き続いたものです。本年度はICC 2005へ向けての最終シンポジウムという位置づけでもありました。このシンポジウムは地球サブシステムを構成する粘土圏を身近な粘土圏環境としてとらえ、粘土・粘土鉱物が実際にどのような特性を応用し、どのように産業社会で使用されているかがいろいろの分野にわたって紹介され議論されました。また、循環型社会と粘土製品との関わり、ユーザーから見た粘土製品の評価の視点も含まれていました。講演者と演題は以下のとおりです。

次世代型建築内装材-MOISS/ 福田恭彬(三菱マテリアル株式会社); マイカの合成とその応用/ 太田俊一(トピー工業株式会社); 粘土を用いた機能賢材/ 井須紀文(INAX)・石田秀輝(東北大・環境科学); ポリマー/ 粘

土ナノコンポジットの材料特性/ 由井 浩(早大学理工総研センタ); 廃活性白土に残留する油脂のバイオディーゼル燃料への変換/ 小島盛次(水澤化学工業株)・朴龍沫(静岡大学農学部); 生活空間・身の回りの粘土-化粧品およびカラム充填剤における粘土鉱物の役割/ 西浜脩二(資生堂マテリアルサイエンス研究センター物性研究所); 有機化合物の表面・層間・細孔中での相互作用とその応用/ 福嶋喜章(豊田中研)。

シンポジウムのあとは懇親会で、新潟大学生協第一食堂で、盛大にとりおこなわれました。参加者は、アルバイトの学生・院生の諸君も、参加して総勢約130人にもなりました。新潟は米どころ、酒どころと、コシヒカリおにぎりから、9種の地酒コーナーもならびそれぞれに試飲していただきました。料理は新潟のものが吉村尚久先生の解説つきで、つぎつぎ紹介され楽しんでもらえたと思います。

次回討論会はICCのため、例年のように開催されず、そのかわりと位置づけられるICCの紹介とそれへの参加の訴えが井上常務委員長からありました。

翌17日は午前、口頭発表、午後ポスターセッションと口頭発表がありました。17日昼の総会では、山岸会長の挨拶後、総会がとりおこなわれました。このなかで、各賞受賞者は以下の通りで、紹介表彰されました。

学会賞(逸見彰男会員)/功績賞(近藤三二、久保博会員)/奨励賞(福士圭介会員)/技術賞(人工粘土研究組合 代表 芝崎靖雄会員)/論文賞(横山信吾会員ほか、岡田清会員ほか)

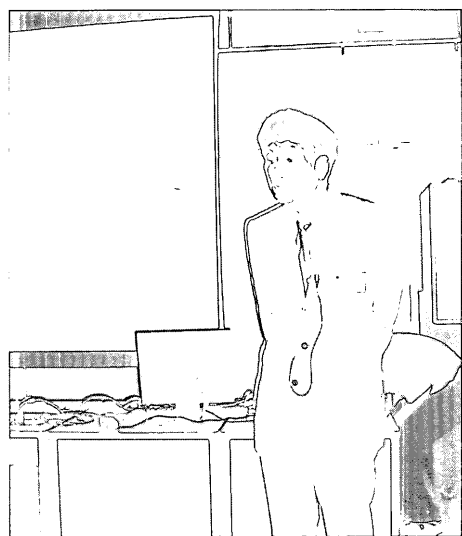
また当初、18日(土)には見学会を、中条羽黒山粘土鉱床、水澤化学・中条工場、胎内高原ビール園、クレーストーン博士の館(黒川村粘土・鉱物資料館)ということで企画しましたが、参加者が少なく、やむなくこれは中止とし、代わりにクレーストーン博士の館(黒川村粘土・鉱物資料館)を訪れる特別バスツアーを企画し、総会の場でも参加者を募集し実施しました。18日朝、新潟駅に集合し、バスでクレーストーン博士の館を訪れ、そこに展示された粘土の特別企画、粘土及び鉱物の諸試料、等見学しました。地方の小さな、しかし粘土を正面からうたったこの博物館は、館長の高橋昭三さんはじめ、古賀 慎さん等この博物館に協力しておられる方々の努力のあとがみえて、なかなかのもので、参加者は満足しました。昼食は近くの地ビール園での交流となりました。

ここに、無事に本年の討論会が終えることができましたこと、参加いただいた方すべての方、また実行委員各位(高橋昭三、佐藤 悌治、高橋範行、渡辺隆、大場孝信、吉村尚久、北山淑江、大河内誠の各会員)に深く感謝いたします。また討論会の準備、運営を支えてくれた新潟大学 鉱物セミナーと地質科学科の院生・学生の皆さんにも厚く感謝いたします。

(赤井 純治)

第48回粘土科学討論会風景

会長講演



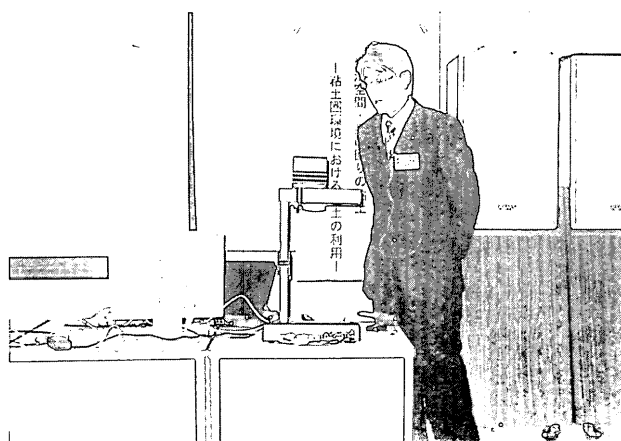
山岸皓彦会長

シンポジウム

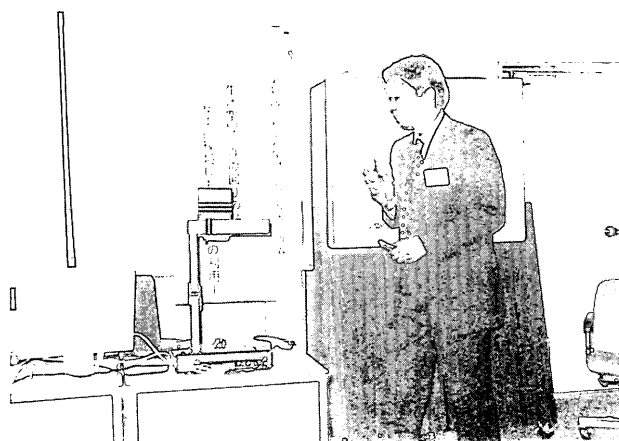
「Clayshere Peart 3：生活空間・身の回りの粘土」



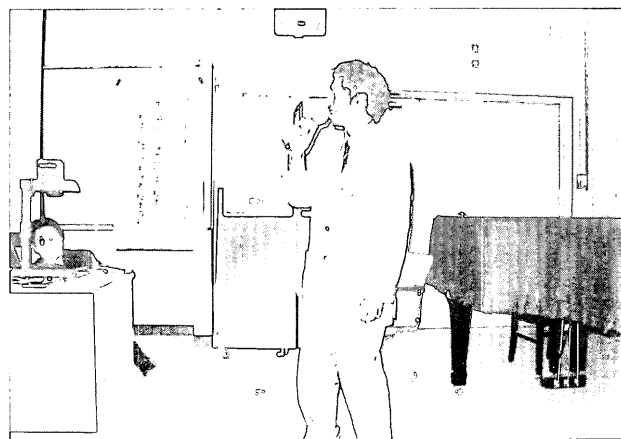
福田恭彬氏



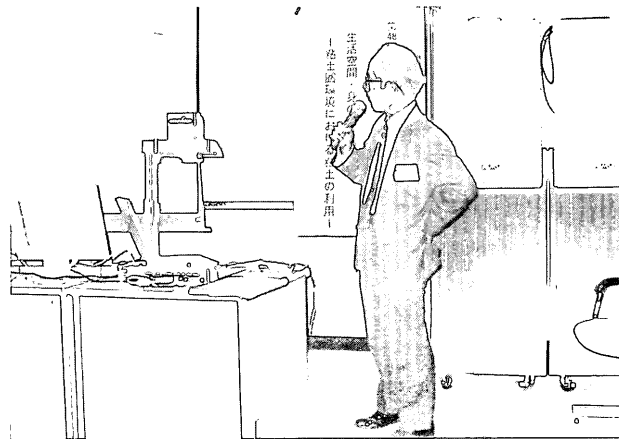
太田俊一氏



井須紀文氏



由井 浩氏

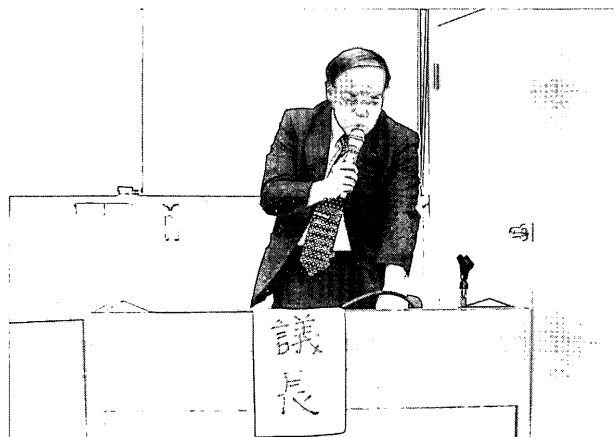


小島盛次氏

総 会

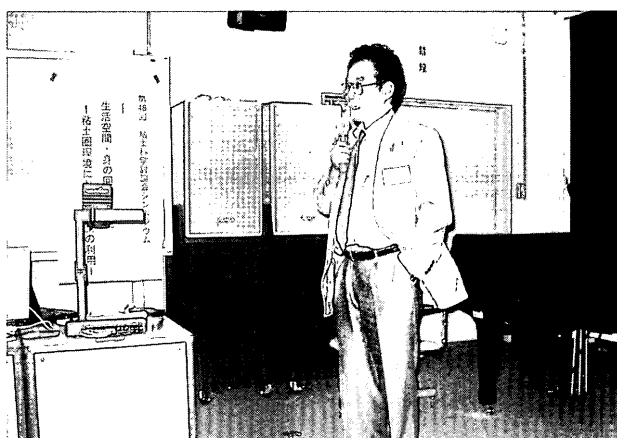


西浜脩二氏

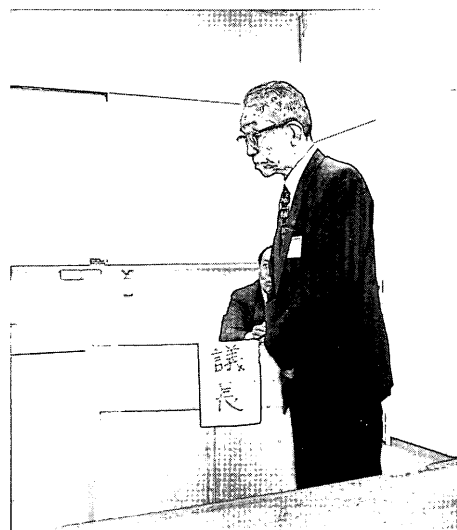


中川昌治議長

表 彰



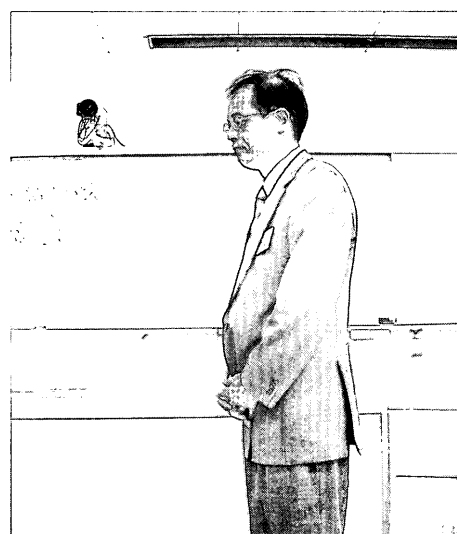
福嶋喜章氏



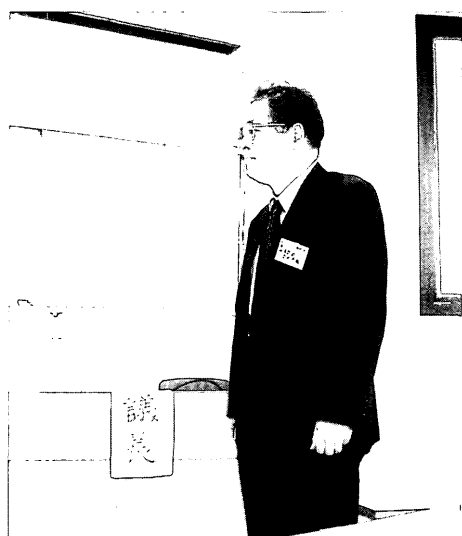
功績賞 近藤三二氏



座長 古賀 慎会長・山崎淳司会員



功績賞 久保 博会員



技術賞 芝崎靖雄会員

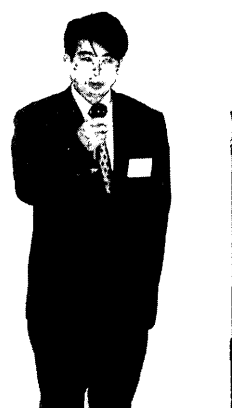


新粘土学会会長 渡辺 隆会長



論文賞（粘土科学） 佐藤 努会員

懇 親 会



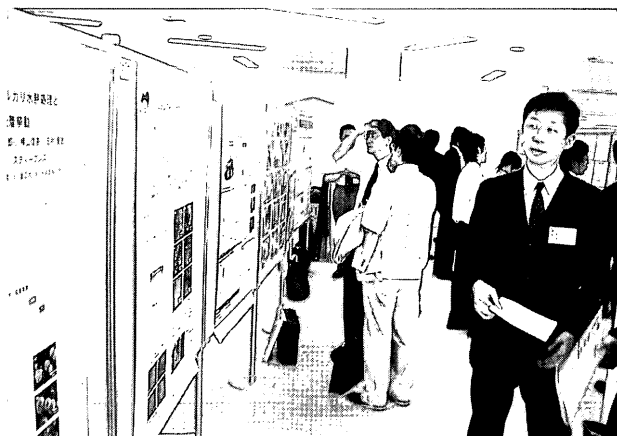
行事委員 赤井純治会員



論文賞（Clay Science） 岡田 清会員



吉村尚久名誉会員



ポスターセッション会場



懇親会風景



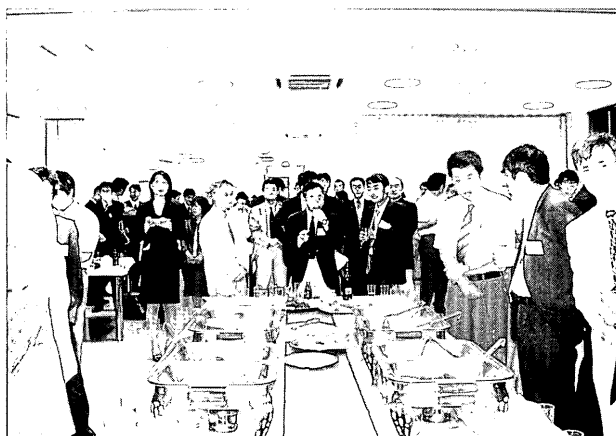
ポスターセッション会場



懇親会風景



ポスターセッション会場



懇親会風景